

講座コード

2121G009

社会基盤としての橋の技術

オンライン



楽しむ
科学

場所

講座形式 **オンライン**

受講料 **7,500円 (3回)** | 定員 **20名**

対象者

単位
1

曜日 **水曜日**

時間 **18:30~20:00**

9月 15、22、29日

国土の多くが山地であり、河川で細かく分断された日本では、それゆえに多くの橋が架けられてきています。本講座では、橋の技術がどのように進歩してきたか、長年使われてきた橋はどのような状態にあるか、橋はどのようにまもられているか、といった切り口で、橋の形や大きさといった初歩的なことから、橋の建設技術の変遷、さらには橋の老朽化の問題などについて、技術的な視点から紹介します。

- 橋の初歩：過去にかけられた橋を振り返りながら、橋のなりたちや様々な形式について解説します。
- 橋の進歩：橋の建設技術が時代の要請とともにどのように進歩してきたのか、橋の実績や事故の歴史を踏まえつつ解説します。
- 橋の老朽化：橋の老朽化の現状や維持管理の取組みについて解説します。

講師

むらこし じゅん

村越 潤

東京都立大学
都市環境学部
都市基盤環境
学科 教授

